

(19)

(11) Publication number: **20**

Generated Document

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: 11131791

(51) Intl. Cl.: A45D 44/22

(22) Application date: 02.04.99

(30) Priority:		(71) Applicant: SANEI PRESS:KK
(43) Date of application publication:	17.10.00	(72) Inventor: TAKAHASHI MASAMI
(84) Designated contracting states:		(74) Representative:

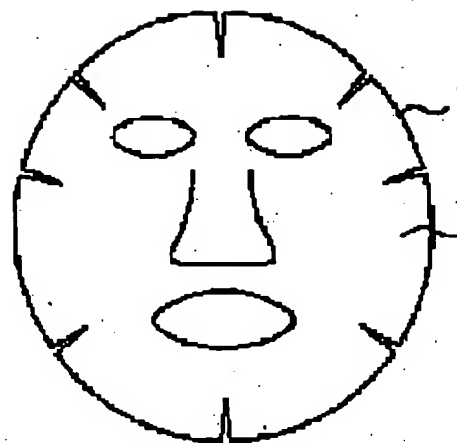
(54) FACE MASK SHEET**(57) Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To save the labor and time when a face mask sheet impregnated with a face lotion is spread to a face shape from a folded state and is applied to the face.

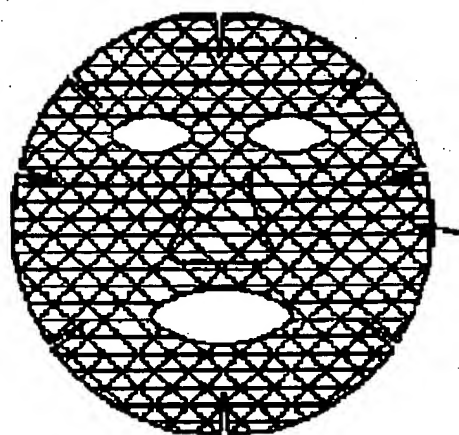
SOLUTION: The face mask sheet 1 is formed by superposing and joining a net-like resin film 3 to one surface of a nonwoven fabric 2 and blanking the resultant laminate to the face shape. In such a case, the front surface side (the side to be applied on the face) is the cellulosic nonwoven fabric 2 and the rear surface side is the net-like resin film 3 made of 9 g/m² polyethylene. These films are joined by thermal welding by means of a laminator device.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

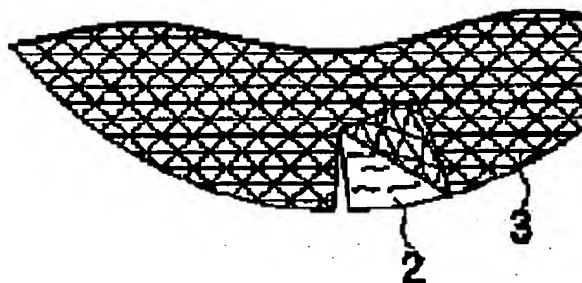
(a)



(b)



(c)



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-287751

(P2000-287751A)

(43) 公開日 平成12年10月17日 (2000. 10. 17)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 5 D 44/22

識別記号

F I

A 4 5 D 44/22

テーマコード(参考)

C

審査請求 未請求 請求項の数 5 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平11-131791

(22) 出願日

平成11年4月2日 (1999. 4. 2)

(71) 出願人

592262901

有限会社三栄プレス

愛知県葉栗郡木曾川町大字門間字新屋敷10
番地

(72) 発明者

高橋 雅己

愛知県葉栗郡木曾川町大字門間字新屋敷10
番地 有限会社三栄プレス内

(74) 代理人

100096116

弁理士 松原 等

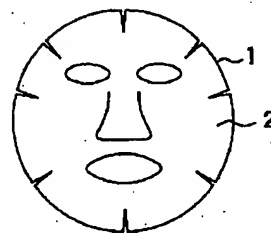
(54) 【発明の名称】 フェイスマスクシート

(57) 【要約】

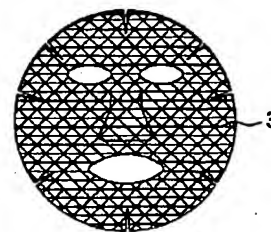
【課題】 化粧水を含浸したフェイスマスクシートを折り畳まれた状態から顔形状に展開して顔に当てる際に手間と時間がかからないようにする。

【解決手段】 フェイスマスクシート1は、不織布2の片面にネット状樹脂フィルム3を重ねて接合してなり、この接合されたものが顔形状に打ち抜かれている。本例では、表面側(顔に当てる側)がセルロース系の不織布2であり、裏面側が9 g/m² のポリエチレン製のネット状樹脂フィルム3であり、ラミネータ装置による熱溶着により接合されている。

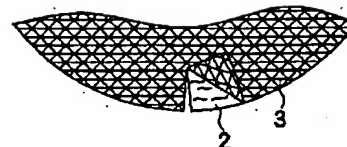
(a)



(b)



(c)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 不織布の片面、両面又は内部に穴あき樹脂フィルムを重ねて接合してなるフェイスマスクシート。

【請求項2】 前記穴あき樹脂フィルムが、ネット状樹脂フィルムである請求項1記載のフェイスマスクシート。

【請求項3】 前記穴あき樹脂フィルムが、5～20 g/m² のものである請求項1又は2記載のフェイスマスクシート。

【請求項4】 前記フェイスマスクシートが、圧縮塊に圧縮されている請求項1、2又は3記載のフェイスマスクシート。

【請求項5】 前記フェイスマスクシートが、折り畳まれて化粧水が含浸されている請求項1、2又は3記載のフェイスマスクシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧バックに使用するフェイスマスクシートに関するものである。

【0002】

【従来の技術】図4に示すように、従来のフェイスマスクシート51は不織布が顔形状に打ち抜かれてなり、これが折り畳まれてから、円盤状の圧縮塊（図示略）に圧縮されて市販されている。このフェイスマスクシート51を使用するには、圧縮塊に化粧水を含浸させて柔らかくし、該圧縮塊を折り畳まれた状態に戻してから、顔形状に展開して顔に当てる必要がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、この化粧水を含浸したフェイスマスクシート51を折り畳まれた状態から顔形状に展開する際に、図4に示すように、折り重なった部分52同志がくっついて剥がしにくい、きれいな顔形状に展開するまでにかなりの手間と時間がかかるという問題があった。また、展開したフェイスマスクシート51を顔に当てる際にも、フェイスマスクシート51の一部がまた折り重なると、そこを剥がして当て直す必要があって面倒であった。

【0004】本発明の目的は、上記課題を解決し、化粧水を含浸したフェイスマスクシートを折り畳まれた状態から顔形状に展開して顔に当てる際に手間と時間がかからないようにすることにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明のフェイスマスクシートは、不織布の片面、両面又は内部に穴あき樹脂フィルムを重ねて接合してなる構成とした。

【0006】不織布の材料は、特に限定されず、セルロース系（パルプ、コットン、レーヨン等）、ポリエステル系等を例示することができる。後述するように圧縮塊に圧縮される場合にはセルロース系が好ましく、折り畳

まれて化粧水が含浸される場合にはセルロース系でもポリエステル系でもよい。

【0007】穴あき樹脂フィルムの穴の形、寸法、数等は、特に限定されず、多数の小穴のあいた樹脂フィルムや、網目自体が穴であるネット状樹脂フィルムを例示することができるが、通液性や手触り感が良い点で、ネット状樹脂フィルムが好ましい。穴あき樹脂フィルムの樹脂材料は、特に限定されず、ポリエチレン、ポリプロピレン等を例示することができる。穴あき樹脂フィルムの厚さは、フェイスマスクシートに適度な腰の強さを与えうるものであれば、特に限定されないが、5～20 g/m² のものが好ましい。

【0008】不織布と穴あき樹脂フィルムとの接合方法は、特に限定されず、不織布の片面又は両面に穴あき樹脂フィルムとを重ねて熱溶着、圧着又は接着により接合する態様や、二枚の薄い不織布の間に穴あき樹脂フィルムを挟んで熱溶着、圧着又は接着により接合する態様や、不織布の形成時にその内部に穴あき樹脂フィルムを埋設して接合する態様等を例示することができる。

【0009】フェイスマスクシートの製品の態様としては、圧縮塊に圧縮されている態様や、折り畳まれて化粧水が含浸されている態様を例示することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】図1～図3は、本発明を具体化したフェイスマスクシート1の実施形態例を示し、図1に示すように、不織布2の片面にネット状樹脂フィルム3を重ねて接合してなり、この接合されたものが顔形状に打ち抜かれている。本例では、図1(a)に示す表面側（顔に当てる側）がセルロース系の不織布2であり、図1(b)に示す裏面側が9 g/m² のポリエチレン製のネット状樹脂フィルム3であり、ラミネータ装置による熱溶着により接合されている。図1(c)は、不織布2からネット状樹脂フィルム3の一部を剥がして見せた図である。

【0011】このフェイスマスクシート1は、図2

(a)～(c)に示すように折り畳んだ後、図2(d)に示すように丸めて圧縮機により矢印方向に圧縮し、図2(e)に示すように円盤状の圧縮塊4に圧縮されて製品化することができる。この場合、フェイスマスクシート1は、圧縮塊4の表面にネット状樹脂フィルム3が現れないようにするために、ネット状樹脂フィルム3を内側にして折り畳むことが好ましい。

【0012】また、このフェイスマスクシート1は、図3(a)～(c)に示すように折り畳んだ後、化粧水を含浸させて、図2(d)に示すようにパッケージ5して製品化することもできる。この場合、フェイスマスクシート1は、ネット状樹脂フィルム3を内側にして折り畳むことが好ましいが、不織布2を内側にして折り畳んでもよい。

【0013】このフェイスマスクシート1によれば、不

織布2の片面にネット状樹脂フィルム3を重ねて接合しており、不織布のみの場合と比べて腰が適度に強くなっていること、また、ネット状樹脂フィルム3にはサラサラ感があって付着性が少ないことにより、化粧水が含浸した状態で折り重なっていても容易に剥がすことができる。また、ネット状樹脂フィルム3は穴があいているため、化粧水の含浸を妨げることはなく、従来品と同様に含浸させることができる。従って、図2(e)の圧縮塊4に化粧水を含浸させて柔らかくし、該圧縮塊4を折り畳まれた状態に戻してから、フェイスマスクシート1を顔形状に展開する際に、手間と時間がかからない。また、図3(d)のパッケージ5から取り出した化粧水を含浸済みで折り畳まれた状態のフェイスマスクシート1を顔形状に展開する際にも、手間と時間がかからない。さらに、展開したフェイスマスクシート1を顔に当てる際にも、適度な腰があることからフェイスマスクシート1の一部が折れにくく、うまく当てやすい。

【0014】なお、フェイスマスクシート1は、基本的には不織布2側を顔に当てるが、好みによってはサラサラ感のあるネット状樹脂フィルム3側を顔に当ててもよい。また、不織布2側とネット状樹脂フィルム3側とを判別しやすいように、不織布2とネット状樹脂フィルム3の色を変えることが好ましい。

【0015】なお、本発明は前記実施形態に限定される

ものではなく、発明の趣旨から逸脱しない範囲で適宜変更して具体化することもできる。

【0016】

【発明の効果】以上詳述した通り、本発明のフェイスマスクシートによれば、化粧水を含浸したフェイスマスクシートを折り畳まれた状態から顔形状に展開して顔に当てる際に手間と時間がかからないという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係るフェイスマスクシートを示し、(a)は表面図、(b)は裏面図、(c)は(b)の部分拡大図である。

【図2】同フェイスマスクシートを折り畳んで圧縮塊にするときの説明図である。

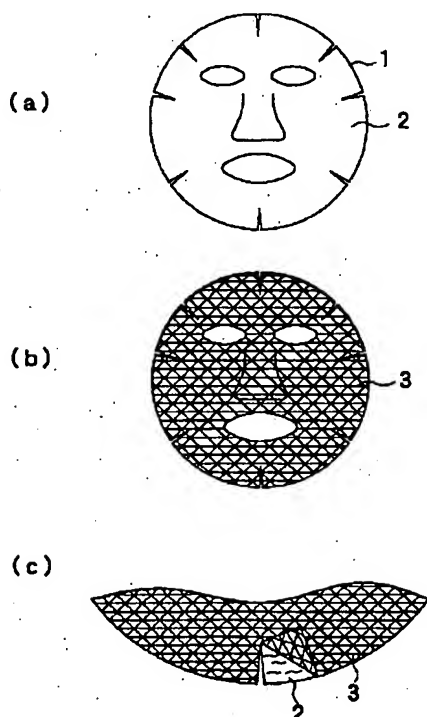
【図3】同フェイスマスクシートを折り畳んでパッケージ化する時の説明図である。

【図4】従来のフェイスマスクシートの問題点を示す表面図である。

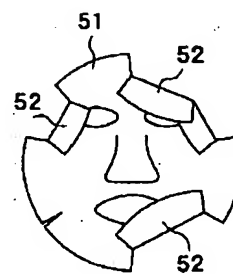
【符号の説明】

- 1 フェイスマスクシート
- 2 不織布
- 3 ネット状樹脂フィルム
- 4 圧縮塊
- 5 パッケージ

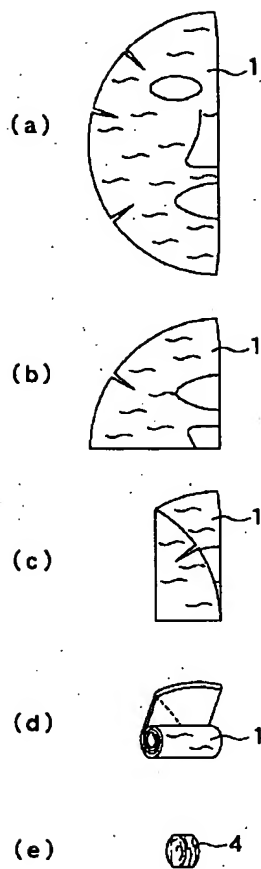
【図1】



【図4】



【図2】



【図3】

